

## 第2学年1組 国語科学習指導案

指導者 関田 聖和

1. 日時 平成18年11月1日(水) 第2校時(9:45~10:30)
2. 場所 2年1組教室
3. 単元 がまくんとかえるくんと友だちになろう
4. 教材 「お手紙」(光村2下)  
「ふたりはきょうも」……あしたするよ, たこ, ひとりきり  
「ふたりはいつも」……アイスクリーム, クリスマス・イブ  
「ふたりはいっしょ」……よていひょう, はやくめをだせ, がまくんのゆめ  
「ふたりはともだち」……なくしたボタン, すいせい

5. 指導にあたって  
本学級の子どもの多くは, 教師の指示に耳を傾け, 学習課題に対して前向きに取り組もうとする。何でも挑戦しようとする活発な子どもが多い中, 表現することが苦手な子どももいる。

国語科の学習の中で, 「書く」活動を大切にしてきた。日常生活の中で, 書くことができるようになれば, 話すための原稿を書くこと, 相手の話を聞いてメモを取ること, また, 文章を読み取り, 整理して書き取ることができるようになるであろう。その結果, 話すこと, 聞くことができたり, 読むことができるようになるのではないかと考えている。作文指導や自身の考えを書く意見文については, 機会を見つけ, 学習の中に取り入れてきた。その結果, 子どもたちは, 抵抗無くノートに文字を綴ることができるようになってきた。また, 作文や自身の意見を長文で書くことができるようになり始めている。

漢字の習得にも力を入れてきた。読み先習を第一にねらっている。そして, 日々「読むことができる漢字」から「書くことができる漢字」へと挑戦している。子どもたちは, 朝のドリルタイムの時間や授業の導入に漢字の学習を取り入れることにより, 漢字を読むこと, 書くことができる楽しさを味わっている。しかしまだ, 漢字を使う便利さまでは, 実感としてつかんでいない。

「話すこと」については, 大勢であると声を出して読むことができる子どもが多い。しかし一人になると, 周囲にしか聞こえない声で話す子ども, 声を出すことさえためらう子どももいる。自分の考えを発表する活動や座席順で音読する活動などを取り入れ, 声を出す機会をつくっている。活動を繰り返すなかで, 学級全体に聞こえる声で話すことができるようになってきたが, 失敗をおそれている子どももいないとは言えない。

子どもたちの「聞くこと」ができる力については, 課題が多い。「聞くこと」ができるようになるために, まず, 手には何も持たず, 話している人の方を向くことから, 取り組んできた。学習指導の中で, 注意や喚起をしながら, 指示や発問をできるだけ短く言うことに努めている。しかし, 子どもたちは, 体を一定の姿勢に保つことができる時間が短い。そのため, 聞いている時間が長いと姿勢が崩れ, 手遊びが始まる。継続的に指導したい課題である。

「書くこと」については, 何よりも抵抗感が少なくなってきた。しかし, 「話すこと」以上に個人差が大きい。行事や出来事についての作文については, 3文程度書くことができる子どもから, 原稿用紙に3枚程度の内容を書く子どももいる。学級内で神戸市児童作文集「はぐるま」に応募した作品が佳作で選出されたことを聞くと, その子どもだけでなく, 「書くこと」についての意欲が高まり始めている。

「読むこと」については, 毎朝, 担任が教室に入ってくるまで, 読書をする活動を取り入れている。朝のドリルタイムや一時間目が落ち着いて取り組むことができることと, 「先生がいなくても, 学級で静かに本を読むことができるよ。」という子どもたちの気概の高まりをねらっている。時折行う読み聞かせが大好きで, 興味をもって聞いている。本教材の「お手紙」と出会った時には, 教師と子どもたちで追い読みをした。すると, 「こは, こう読みたい。」と話す子どももいた。興味をもってお話を読

んでいこうとする気持ちを大切にしつつ, 声を出す音読へとつなげたい。様々な読み方を取り入れ, 音読は, 楽しいものだと感じるよう取り組みたい。

「スイミー」の学習では, スイミーや小さな魚の兄弟たちの取った行動や登場人物が考えていること, 思っていることを読み取る学習を取り入れた。多くの子どもたちは, スイミーに寄り添い, 様々なことを読み取った。しかし, 文字を読むことが苦手な子どもは, 教師や友だちの音読で, 理解し読み取っていた。読み取る学習については, 個別指導を必要とする子どももいる。そこで, すぐに発言させるのではなく, まず, 頭の中にイメージしたことを書き表す作業を取り入れた。そうすることで, 発言することができ, ぼんやりしていたものが, 文や言葉で明示され, 分かりやすくなった。

本単元は, 教科書の「お手紙」のほかに, アーノルド=ローベルが書き残した著作の中から, 8~10教材を加える。たくさんのお話を知り, 読むことによって, より「かえるくん」と「がまくん」に親しみをもつことであろう。がまくんが一度もお手紙をもらったことがないことを知り, 悲しい気分になるかえるくん。彼は, がまくんへお手紙を書き, 喜ばせようと行動する。子どもたちは, かえるくんがもつ, やさしさにふれるであろう。かえるくんは, 『親愛なるがまくん。ぼくは, きみがぼくの親友であることを, うれしく思っています。きみの親友, かえる。』と書く。それを聞いたがまくんは, 「ああ。」と, 声を漏らす。「ああ。」に込められたかえるくんへの思いを考える中で, お互いのもつやさしさと, 友を思う姿に共感することができればと願う。

作品の中にユーモラスな場面があるが, 初読だけでは, つかみにくいことが予想される。「お手紙」については, 学習の中で再読をすることで, 登場人物は, 知らないけれども, 読者の子どもたちは, 知っていることを確認しながら, 作品の中のユーモアに気づき, おもしろさを感じると思われる。

本単元では, 主となる登場人物の「かえるくん」と「がまくん」が取った行動を読み取りながら, 会話文に着目し, 楽しく音読することをねらう。第1次では, 「がまくんとかえるくん」のお話は, たくさんあり, 全部の学習が終わったら「がまくん, かえるくん」シリーズのお話を作ることを伝える。次にグループで読んでみたいお話を選択する。グループで読んだ本については, 「がまくん, かえるくんは, どんな子か。」を考え, それぞれがワークシートにまとめる活動を行う。その後, 学習班で1つの意見にまとめ, クラス全体へ本の紹介をするための準備をする。その際, 紹介を聞いている人がその話を読んでみたいと思えるよう, 音読する場面を工夫し, 役割読みをするように指導する。第2次では, 授業の導入で, 2学年の漢字全てを網羅した「リズム漢字」を音読する。これは, 漢字の学習の読み先習をねらうと共に, 授業開始がスムーズになることもねらっている。次に, 簡単なブックトークを行う。「がまくん, かえるくん」の人柄やお話の紹介をする。「読むこと」「話すこと」そして, 「聞くこと」の学習として取り組む。そして, 教科書教材「お手紙」を学習する。会話文について, 誰が言った言葉が混乱する子どももいると予想されるため, 「誰が, 何を話した」のかを確認したい。また, どう音読するのかを考えたり, 文の比較をしたりしながら, 登場人物の心情にせまりたい。第3次では, 1, 2次で読み取ったことをもとに, アーノルド=ローベルの著書から挿絵を提示し, 3~4枚選択させる。その絵を使って, 新しいお話を書く活動を取り入れる。その後, クラスで製本をし読みあいたい。

上記のようにこの単元の学習では, 45分間の授業時間の中で, 10~15分のユニットに分けて学習をする「10分ユニット学習」を取り入れる。メリットは, 一つのユニットの学習時間が短いため, 集中力が持続すると考えている。デメリットは, 体験を基本とする学習には, 不適切であろう。低学年の時期に, 学習を楽しむ経験をたくさん積みませ, 苦手であっても, この時間は挑戦してみようとする意欲を育みたい。またできるだけ多くの子どもに自分自身の意欲で, 活躍することができるようにしたい。そのため, 短い時間に区切った「10分ユニット学習」を取り入れ, 様々な学習を仕組んでいきたい。最初の10分では, 支えてもらっていた子どもが, 次の10分では, 支える立場になっている姿を見ることができると頼もしい。そのためには, 授業時間内の雰囲気や気持ちを大切にしながらも, 分かりやすい指示, 発問を心がけたい。毎時間の授業の中で子どもたちが, 自信をもっていかないことであっても, 話すことができる学習集団となるよう, 根気強く指導し, 温かい学級の雰囲気をつくっていききたい。

6. 単元目標

「だれが、どうした」に気をつけて、「がまくん」、「かえるくん」の気持ちや場面の様子を想像しながら読んだり、音読したりし二人のお話を楽しむ。  
主語と述語の役割と言い方を知り、気をつけて読んだり、書いたりする。

7. 単元の評価規準

ア 国語への関心・意欲・態度	イ 読む能力	ウ 書く能力	エ 言語についての知識・理解・技能
1. お話に興味をもち、読み進めようとしている。 2. 本の紹介を友だちと協力をして伝えようとしている。 3. がまくん、かえるくんの新しいお話を書こうとしている。	1. 場面の様子やがまくん、かえるくんの心情について、想像しながら読んでいる。 2. がまくん、かえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読んでいる。	1. 登場人物の人柄を言動から考えて書いている。 2. 登場人物の人柄が表れるように、新しいお話を考えながら書いている。 3. 習った漢字や言葉を使い、主語、述語を意識してお話を書いている。	1. 習った漢字を正しく読んだり書いたりしている。 2. 主語と述語との関係に注意して、読んだり書いたりしている。

8. 単元計画（全10時間）

次時	学習活動	指導上の留意点	評価
1 1	学習計画を聞き、がまくんとかえるくんは、どんな子かを考える。 ・リズム漢字を音読する。  ・学習計画を聞き、学習への意欲をもつ。  ・班で決めたお話を読む。  ・がまくんとかえるくんは、どんな子かを考え、ワークシートにまとめる。	・授業チャイム後すぐに始め、楽しく音読できるようにする。 ・学習の最後に、がまくん、かえるくんのお話を書くことを伝える。 ・お話を決めるときは、それぞれの内容は伝えなくて、題名のみを伝える。  ・単に「 な子」ではなく、 をしているから、 な子と書くよう助言する。	エ - 1 楽しんで読んでいる。 （活動している姿の観察）  ウ - 1 登場人物の人柄を読み取り、書こうとしている。 （ワークシート）
2	ワークシートに書いたものを班の意見としてまとめる。 ・リズム漢字を音読する。  ・ワークシートに書いたものを班の意見としてまとめる。 ・まとめた意見をノートに書く。  ・「お手紙」を音読する。	・授業チャイム後すぐに始め、楽しく音読できるようにする。 ・お互いに書いた意見を読み合い、一番みんなの意見に近いものを選ぶよう助言する。 ・アウトラインを以下のように与える。 日付 がまくんとかえるくんと友だちになろう 読んだ本の題名 かえるくんは、……子。 がまくんは、……子。 ノートに書かせるスタート行、升目を教える。 ・初読となるので、追い読み中心で行う。	エ - 1 楽しんで読んでいる。 （活動している姿の観察）  ウ - 1 自分の考えを伝え、アウトラインをもとに、グループの意見としてまとめて書いている。（ノート）  ア - 1 教材文を楽しく声に出して読んでいる。 （活動している姿の観察）
3	本の紹介の練習をする。 ・リズム漢字を音読する。 ・本の紹介の練習をする。  ・「お手紙」の音読する。	・授業チャイム後すぐに始め、楽しく音読できるようにする。 ・本の紹介の役割分担を決め、音読する場所が長くなりすぎないように助言する。 ・難語句を確認しながら読み進めたい。 ・場面の確認を行い、教科書に番号を振るよう指示する。	エ - 1 楽しんで読んでいる。 （活動している姿の観察） イ - 2 本の紹介をする場面を楽しく音読している。 （活動している姿の観察） ア - 1 教材文を楽しく声に出して読んでいる。 （活動している姿の観察）

2	<p>1 「お手紙」一の場面 (P.4 ~ 7   2) を読み, どうしてふたりともかなしい気分になっているのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム漢字を音読する。</li> <li>・ブックトークをする。</li> <li>・「お手紙」一の場面を音読する。 主発問 どうしてふたりともかなしい気分になっているのか。</li> <li>・学習したことを生かし, 音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗バトル, 漢字リピート風 (1行ずつ子どもがタケノコ読みで読んでいく), 男女対抗などの変化のある繰り返しで読むことができるようにする。</li> <li>・子どもたちの集中度を考慮して, 2つの班のみ行いたい。</li> <li>・ブックトークを聞いて, とっても読みたいなと感じたら「 」, 読んでみたいなと思ったら「 」を, ノートに書くよう指示する。</li> <li>・誰が話しているのかを混乱する子どもがいると予想されるので, それぞれの会話文を確認をする。</li> <li>・「ふたりとも」という言葉に着目し, がまくんは, お手紙を一度ももらったことがないということ, かえるくんは, がまくんが悲しくなっていることで, 悲しい気分になっているということをつかませたい。</li> <li>・がまくん, かえるくんの言葉を意識して読ませたい。</li> </ul>	<p>エ - 1 楽しんで読んでいる。 (活動している姿の観察)</p> <p>ア - 2 イ - 2 登場人物の様子やお話の一部が分かるように読んでいる。 (活動している姿の観察)</p> <p>イ - 2 ウ - 1 登場人物の言動から, それぞれの悲しい気分になっているわけを読み取ったり, ノートに考えを書こうとしたりしている。 (ノート, 発言している姿の観察)</p>
2	<p>「お手紙」二の場面 (P.7 ~ P.8) を読み, お手紙を書いたかえるくんは, どんなことを考えながら家を飛び出したのかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム漢字を音読する。</li> <li>・ブックトークをする。</li> <li>・「お手紙」二の場面を音読する。 主発問 お手紙を書いたかえるくんは, どんなことを考えながら家を飛び出したのか。</li> <li>・学習したことを生かし, 音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗バトル, 漢字リピート風 (1行ずつ子どもがタケノコ読みで読んでいく), 男女対抗などの変化のある繰り返しで読むことができるようにする。</li> <li>・子どもたちの集中度を考慮して, 2つの班のみ行いたい。</li> <li>・ブックトークを聞いて, とっても読みたいなと感じたら「 」, 読んでみたいなと思ったら「 」を, ノートに書くよう指示する。</li> <li>・ユーモアの仕掛を体感することができるように, 再読の立場で読み進め, 「登場人物は知らないけれど, 読者 (初読) は, 知っている。」で読む進めたい。</li> <li>・かえるくんの行動を追いながら, がまくんが喜んでくれるだろうといったことを子どもたちが考えればよい。</li> <li>・かえるくんの行動をリズムよく, 音読させたい。</li> </ul>	<p>エ - 1 楽しんで読んでいる。 (活動している姿の観察)</p> <p>ア - 2 イ - 2 登場人物の様子やお話の一部が分かるように読んでいる。 (活動している姿の観察)</p> <p>イ - 2 ウ - 1 かえるくんの行動からがまくんを喜ばせようとしている心情を読み取ったり, ノートに考えを書こうとしたりしている。 (ノート, 発言している姿の観察)</p>
3	<p>「お手紙」三の場面 (P.9 ~ P.12   5) を読み, かえるくんの言動から, がまくんを喜ばせたい心の中を想像する。</p> <p>本時</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム漢字を音読する。</li> <li>・ブックトークをする。</li> <li>・「お手紙」三の場面を音読する。 主発問 どうしてかえるくんは, 「ひょっとして, だれかがきみにお手紙をくれるかもしれないだろう。」と言ったのか。</li> <li>・学習したことを生かし, 音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗バトル, 漢字リピート風 (1行ずつ子どもがタケノコ読みで読んでいく), 男女対抗などの変化のある繰り返しで読むことができるようにする。</li> <li>・子どもたちの集中度を考慮して, 2つの班のみ行いたい。</li> <li>・ブックトークを聞いて, とっても読みたいなと感じたら「 」, 読んでみたいなと思ったら「 」を, ノートに書くよう指示する。</li> <li>・かえるくんの心の中を想像するために, かえるくん, がまくんの言動を確認したい。</li> <li>・がまくんに対して働きかけるかえるくんの行動から考えたい。</li> <li>・がまくん, かえるくんに寄り添った音読をさせたい。</li> </ul>	<p>エ - 1 楽しんで読んでいる。 (活動している姿の観察)</p> <p>ア - 2 イ - 2 登場人物の様子やお話の一部が分かるように読んでいる。 (活動している姿の観察)</p> <p>イ - 2 ウ - 1 登場人物の言動から心情を読み取ったり, ノートに考えを書こうとしたりしている。 (ノート, 発言している姿の観察)</p>

2	<p>4 「お手紙」四の場面（P.12 16～P.14）を読み、かえるくんから手紙のことを聞かされたがまくんの心の中を想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム漢字を音読する。</li> <li>・ブックトークをする。</li> <li>・「お手紙」四の場面を音読する。 主発問 がまくんが、「ああ。」と言った時の心の中を想像する。</li> <li>・学習したことを生かし、音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗バトル，漢字リピート風（1行ずつ子どもがタケノコ読みで読んでいく），男女対抗などの変化のある繰り返しで読むことができるようにする。</li> <li>・子どもたちの集中度を考えて，2つの班のみ行いたい。</li> <li>・ブックトークを聞いて，とっても読みたいなと感じたら「 」を，読んでみたいなと思ったら「 」を，ノートに書くよう指示する。</li> <li>・手紙を出したことをがまくんに告げたかえるくんの心情に迫り，がまくんが言った「ああ。」を大切に音読したい。</li> <li>・がまくん，かえるくんに寄り添った音読をさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エ - 1 楽しんで読んでいる。（活動している姿の観察）</li> <li>ア - 2 イ - 2 登場人物の様子やお話の一部が分かるように読んでいる。（活動している姿の観察）</li> <li>イ - 2 ウ - 1 手紙の内容を聞いたがまくんがの心情を読み取ったり，ノートに考えを書こうとしたりしている。（ノート，発言している姿の観察）</li> </ul>
	<p>5 「お手紙」五の場面（P.15～終）を読み、お手紙が届いた後、がまくんやかえるくんが話したことを想像する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム漢字を音読する。</li> <li>・ブックトークをする。</li> <li>・「お手紙」の五の場面を音読する。 主発問 お手紙が届いた後のがまくんとかえるくんが話したことを想像してみよう。</li> <li>・学習したことを生かし、音読する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗バトル，漢字リピート風（1行ずつ子どもがタケノコ読みで読んでいく），男女対抗などの変化のある繰り返しで読むことができるようにする。</li> <li>・子どもたちの集中度を考えて，2つの班のみ行いたい。</li> <li>・ブックトークを聞いて，とっても読みたいなと感じたら「 」を，ノートに書くよう指示する。</li> <li>・7ページと15ページの挿絵や「ふたりとも悲しい気分で，げんかんの前にこしを下ろしていました。」と「ふたりとも，とてもしあわせな気持ちで，そこにすわっていました。」を比較しながら，考えたい。</li> <li>・がまくん，かえるくんに寄り添った音読をさせたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エ - 1 楽しんで読んでいる。（活動している姿の観察）</li> <li>ア - 2 イ - 2 登場人物の様子やお話の一部が分かるように読んでいる。（活動している姿の観察）</li> <li>イ - 2 ウ - 1 登場人物の言動からお手紙を待つ楽しさなどを読み取ったり，ノートに考えを書こうとしたりしている。（ノート，発言している姿の観察）</li> </ul>
3	<p>1 がまくん，かえるくんシリーズのお話を考えて書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム漢字を音読する。</li> <li>・ブックトークを振り返り，どんなお話にしたいかを考える。</li> <li>・主語，述語の使い方を学習する。</li> <li>・挿絵を3～4枚選び，お話を書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗バトル，漢字リピート風（1行ずつ子どもがタケノコ読みで読んでいく），男女対抗などの変化のある繰り返しで読むことができるようにする。</li> <li>・どんなお話にするか，登場人物をノートに書いてから，挿絵を選ばせたい。</li> <li>・簡単な例文を使い，だれが（主語），どうした（述語）であることを教える。</li> <li>・挿絵は，各話のもの混在させて提示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エ - 1 楽しんで読んでいる。（活動している姿の観察）</li> <li>エ - 2 主語と述語の関係を学習し，文を書くときに注意している。（子どもが書いたお話）</li> <li>ア - 3 ウ - 2, 3 挿絵を選び，登場人物の人柄が表れるようなお話を書いている。（子どもが書いたお話）</li> </ul>
	<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズム漢字を音読する。</li> <li>・お話を書く。</li> <li>・書き上げた子どもは，友だちと交換をして互いに感想を聞きあう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・班対抗バトル，漢字リピート風（1行ずつ子どもがタケノコ読みで読んでいく），男女対抗などの変化のある繰り返しで読むことができるようにする。</li> <li>・個々の能力の差はあるが，そのまま印刷して製本をすることを伝え，できるだけ丁寧な字で書くよう促す。</li> <li>・時間差が生じると思われるので，できた子ども同士で，読み合い，感想を伝えるよう助言する。</li> <li>・字の間違い，句読点の書き忘れなど，書き直すところがある場合は，この時間を使って行いたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>エ - 1 楽しんで読んでいる。（活動している姿の観察）</li> <li>エ - 2 主語と述語の関係を学習し，文を書くときに注意している。（子どもが書いたお話）</li> <li>ア - 3 ウ - 2, 3 登場人物の人柄が表れるようなお話を書いている。（子どもが書いたお話）</li> </ul>

9. 本時の学習

ア 目標 かえるくんの言動から、がまくんを思う心情を考える。

イ 過程(展開)

学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点	評 価 規 準 と 評 価 の 方 法
1. リズム漢字を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 休み時間から子どもたちが帰ってきている間は、クラス全体で音読をする。</li> <li>・ タンバリンを使ってリズムをとる。</li> <li>・ 意欲を高めるために、班対抗で、どちらが大きい声だったかを競う。</li> <li>・ 暗唱をすることができる子どもは、見ないで音読をしてもよい。</li> </ul>	エ - 1 楽しんで読んでいる。 (活動している姿の観察)
2. ブックトークをする。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちの集中度を考えて、2つの班のみ行いたい。(本時は、5, 6班)</li> <li>・ ただ聞いているだけの子どもをなくすために、ブックトークを聞いて、とつても読みたいと感じたら「 」, 読んでみたいと思ったら「 」を、ノートに書くよう指示する。</li> </ul>	ア - 2 イ - 2 登場人物の様子やお話の一部が分かるように読んでいる。 (活動している姿の観察)
3. 「お手紙」三の場面を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教師が読んだあと、子どもが復唱する、追い読みで進めたい。</li> <li>・ 会話文を聞いていて、複数の読み方がある場合、がまくんやかえるくんの会話文を個別に音読させたい。</li> <li>・ 基本的には、本を持たせて音読するように指導をしているが、中には、指で読んでいるところをなぞらないと読めない子どももいるので、どこを読んでいるか分からなくなった子どもには、そっと伝える。</li> </ul>	イ - 2 がまくん、かえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読んでいる。 (活動している姿の観察)
4. かえるくんとがまくんの言葉を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもたちが、がまくんが言っているのか、かえるくんが言っているのか混乱すると思われるので、一つひとつの会話文を確認する。</li> <li>・ できる限りたくさんの子どもの発言ができるよう、同じ言葉であっても、答えるよう助言する。</li> </ul>	
5. かえるくんの言動から、がまくんを思う心情を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がまくんに対して働きかけるかえるくんの行動から考えたい。</li> <li>・ どうして「ひょっとして、だれかがきみにお手紙をくれるかもしれないだろう。」と言ったのか、と、問うことで、かえるくんのがまくんを思う心情に迫りたい。</li> <li>・ 子どもたちが自分の意見を書けたかどうか確認をする。明らかな読み間違いでない場合は、赤丸をつけたい。</li> <li>・ 書くことが難しい子どもについては、板書を写したり、発表をする友だちの意見を書いてもいいことを伝える。</li> <li>・ 時間をかけすぎると、手遊びをする子どもが出始めるので、音読や発表形態に変化をつける。ここでは、意見の発表や話し合いの時間としたい。</li> </ul>	イ - 2 ウ - 1 登場人物の言動から心情を読み取ったり、ノートに考えを書こうとしたりしている。 (ノート、発言している姿の観察)
6. 学習したことを生かし、音読する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ がまくん、かえるくんに寄り添った音読ができるよう、役割を決めて、音読するよう指示する。</li> </ul>	イ - 2 がまくん、かえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり、声の大きさなどに注意して読んでいる。 (活動している姿の観察)

反省点（いっぱいあるので、随時更新）

- ・時間数の関係上、ブックトークを第2次の授業の中に組み込んだが、第3次の方がよい。
- ・がまくん、かえるくんの会話文の確認は、早い段階で行っていた方がよい。